

寒河江市学校施設整備計画改定（案）説明会 質疑応答

会場：南部小学校 体育館

日時：令和5年10月13日（金）19時00分から20時30分

参加人数：14名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐

学校再編整備室 係長

（発言者A）

地域の声を聞いて、大分変化があるなと思います。いくつか考えといいますか、現在決まっていればということでお伺いします。1つは、給食等の準備は大丈夫なのか。1000食をこえるところがでてくるといいますので、そこについてどんな風に考えているのかお伺いいたします。

もう1点、通学についてスクールバスの話がでたと思います。今年、米沢の方でいたましい事故がありました。部活動の帰り道に中学生が亡くなるということがございました。スクールバス等について、中学校でありますので、部活も十分考えられるかなと思います。暑さに対しても柔軟に対応できるのかどうか、西川町で豪雨があったときに志津方面に帰れなかったというお子さんがいらっしゃいました。この災害時についても十分に対応できる体制を考えているのかどうかお伺いしたいと思います。

（学校教育課長）

ありがとうございます。給食ですが、今はセンター方式で行っておりますが、新しく統合した場合の給食については、センター方式になるか、自校給食になるか今のところ決まっていないところで、これから検討していきたいと考えております。

（教育長）

通学に関してですが、さきほど説明したようにスクールバスを活用する、方面によっては、生徒数が少ないところもあると思います。そういったところはジャンボタクシーなどを活用しながらやっていきたいと思っております。あと、この説明会等でも、どこに学校を作るかによってですが、JR左沢線の活用とか、循環バスの活用を考えたらいいのではないかと、そういったこともありますので、そうしたことも含めて考えていきたいと思っております。夏の暑さへの対応ですが、今年のような暑さが今後も続くことが十分予想されますので、猛暑の場合には、そもそもは部活動を中止するとか、そういったことが第一の対応だと思います。その他、急な天候の変化のときには、通常の授業が行われている場合には、スクールバスを活用するなど臨機応変に考えていかなければならないと思っております。

(学校教育課長)

他にいらっしゃいますか。

(発言者 B)

私はこれまで2回開催されました地域説明会に参加をいたしまして、あなた方、教育委員会に対して批判的なことばかりを申してきました。これは、今回のような小中学校の統廃合というのは、統廃合によって寒河江市が衰退しダメになってしまう大きな危惧の念をもっているからであります。若干、辛辣な発言にはどうかお許しをいただきたいと思えます。何よりも一番問題なのは、いろいろな問題が積算しておりますが、何よりも一番問題なのは、小中学校を統廃合することが規定の事実、あるいは大前提として話が進められている。そこで、小中学校を統合することはいつ決まったのかと思い調べてみました。まず、学校のあり方検討委員会で決まったのかと思い、その議事録を読んでみました。そうしましたら、こんな記録がありました。検討委員会の第1回目の会議ですが、当時の課長と委員長がこんなことを言っております。この検討委員会は、決定の場ではなく委員の考えを出す場であると会議の中で念を押した上で、会議を進めている。あり方検討委員会は決定する場ではないということでもあります。にもかかわらずこの検討委員会の答申以降は、学校の統廃合はもう決まったことであり、統廃合が大前提であるかといったかのような印象を市民に与えて、話が進められているということでもあります。何か巧妙に騙されてしまっているそんな感じがしてなりません。そもそもあり方検討委員会の答申であります。改めて読んでみましても、あり方検討委員会ではいろいろと真摯に検討されて、いろいろな意見を出されたようですが、結局は、検討委員会の答申は学校の統廃合がすでに決められていたかのようなそんな内容でまとめられています。本当は、市民を対象とした説明会では中学校を1校にするか2校にするか、そういった議論以前に学校は地域になくなくてはならない重要なインフラであって、寒河江市は安易な合併はせず、生徒が減ったとしても少人数教育を基本として進めていくんだ、そういった選択肢があることを市民に提示し、そういったところからスタートして みんなで議論してもよかったのではないかと考えます。にもかかわらずこういった議論を省いてしまって、議論のテーマをいきなり中学校を1校にするのか2校にするのかそういった問題にすり替えてしまった、そういうことなのではないかと思えます。だいたい、計画改定の案をホームページで見てみたのですが、統合という言葉は、それまで1回も使われていなかったのですが、16ページも進んでから初めて統合後の学級数はなどという風に、ふってわいたかのように統合の文字がでているわけです。統合することはもうコンセンサスであるかのように記載されているのであります。本来であればその前段において、こういったことでこうこうだから小中学校を統合するというように宣言あるいは、記載するべきであるにも関わらず16ページも進んでから、統合の文字がまるで他人事のように出てくる。すべてがこのような具合でありまして、計画そのものが欠陥だらけといえますか、内容不全であることは歴然であると思えます。ここで改めて教育長にお伺いしたいと思います。小中学校を統廃合することは、いつ決まったのでしょうか。決まったとすれば、いつどの段階で決定されたのでし

ようか。

(教育長)

あり方検討委員会が令和元年から設置されまして、そこでいろいろ検討されました。そして、令和3年12月に答申がありまして、その後、教育委員会等で検討いたしまして、令和4年3月の教育委員会でさきほどのロードマップにありますような計画を議決したわけです。ですから、決定したのは、令和4年3月の教育委員会で議決したということです。

(発言者B)

ロードマップによって決定したということですが、何か釈然としないものがあります。統合するかどうかは非常に大きな問題でありますので、統合するということをまず採決すべきだったのではないのでしょうか。私は、学校は統廃合などはしないで、寒河江市は複式学級、小中一貫校、少人数教育など様々なメニューを設けて、子どもたちが自分にあったものをそれぞれ自由に選択できるといった計画こそが、子どもたちの将来を豊かにし、地域の振興にもつながると思うのであります。実際、あり方検討委員会の先生方は、発言の中でも複式学級は非常に大きな評価を与えていますね。ところが、この説明会でも複式学級は解消すると胸を張って堂々と説明しているわけです。これはちょっとおかしいのではないのでしょうか。今最近の大学などの研究では、複式学級は解消するのではなく、積極的に活用すべきといっている。それにもかかわらず、せっかくあり方検討委員会の先生方、東北芸術工科大の三浦先生、山形大学の佐藤先生、2人の先生が複式学級というのは、一周遅れのトップランナーだと非常に高い評価を与えております。そういった意見を無視するのは納得いきません。複式学級の良さをもっと評価して、そういうプログラムの中に入れてはどうか。

(教育長)

複式学級の良さもあります。その良さの一番のところは、今、学びの中で求められているのは、子どもたち自身がよく考えることです。複式学級は、2つの学年を一緒に授業しますので、直接的に指導する場面、そして、教員は次に別の学年に指導しますので、その間は、最初の学年は課題に対して自分たちで考える、直接、間接の指導が繰り返されるわけです。そこで考える時間がある。それから、少人数ですので、その話し合いのリーダーをローテーションしながらやって、そういった体験をするなどいい点もたくさんあるということです。複式学級を否定するわけではありません。あり方検討委員会では複式学級の良さも認めているわけですが、答申の中では、複式学級の解消について答申されています。そして、複式学級については令和8年度を目途に早期解消をすべきだという答申になっております。これは考え方で、どちらが必ずいいということではないと思います。例えば、遊佐町では今年5つの小学校が1つに統合されました。その大きな理由は、複式学級となる小学校が多くなってきたということのようですし、酒田市の酒田四中学区でも、学区内の6つの小学校と中学校を統合するという答申が学区編成を考える会議で出されました。これの大きな理由は、複式学級の解

消ということでした。多くの子どもたちと色々な意見を出し合いながら学ばせたいという思いもありますし、保護者の方も複式学級になるくらいの少人数ではなく、もっと大きい人数の中で小学校生活を送らせたいという思いの方もいらっしゃるということです。先週の説明会でも、さきほど説明しましたように、西部地区に小学校を1校整備する計画と申しましたが、そうすると統合までに時間がかかって、複式学級がつづくということで、もっと大人数で早めに勉強できるように、統合を早められないかというご意見などもいただいております。そうしたいろいろなご意見があるんだと思います。

(発言者B)

あり方検討委員会と申し上げましたが、外部有識者会議ですね、その先生方の意見で、複式学級というのは有効だという意見がありました。古い考えといえますか、半世紀も前のことですが、「大きいことはいいことだ」というコマーシャルご存知でしょうか。大きいことがいいことというのは、今は通用しない。むしろ小さいことはいいことだということで、学校の校舎が古くなったからと、子どもの数が減ったからと、機械的に学校を統廃合して大きくする、まったく同じメニューを、不登校やいじめの確率が高い、逃げ場のないメニューを否応なく子どもたちに強いるのは、子どもたちのことを考えてのことではないと私は思います。

(学校教育課長)

ご意見ありがとうございました。その他ございますか。

(発言者C)

1つわからないことがあってお伺いしたいと思います。建設するときの金額で19ページ、国庫負担が半分で30億くらいはわかったのですが、その下の交付税措置というのが何かわからなくて、そのときによってもらえる金額が変わったりするものなのか、何なのかもよくわからないので教えていただければと思います。

(学校教育課長)

交付税措置というのは、この表で補助金が半分、残りの部分は市で借金するわけです。借金をした場合、国の方からの補填がくるような形が交付税措置となっております。今回の場合は、残った分が全部交付税対象となると仮定して、交付税が20億くらいという計算となっております。その他の方はいらっしゃいませんか。

(発言者B)

私ばかり話して申し訳ありません。私は東京や仙台に知人がおりますが、私が暮らしている寒河江市には中学校が1校しかないと言うのは、とても恥ずかしくて言えません。外部から見て中学校が1校しかない寒河江市をどのようにイメージするのでしょうか。中学校が1校しかないところに誰が移住して住んで

みたいと思うのでしょうか。生徒数が1000人も学校の転校したいと誰が考えるのでしょうか。人口が増えるには、とくに若者にとって市のイメージが何よりも重要であることは、周知のことです。実際、東根市では、新たに中高一貫校を設けたり、学童保育と一体化した放課後こども教室といったものを新たに設けた結果、ずいぶん東根市全体のイメージがあがりまして、若い人たちの印象がよくなってきたということでもあります。しかしながら、我が寒河江市の教育委員会の計画は、寒河江市のイメージを根底から徹底的にダメにするということは必定でありまして、このままでは寒河江市の未来が本当に破壊されてしまうのではと私は心配でなりません。だからこそこうして、辛辣な言葉を申し上げるわけですが、この計画案が通るようなことになれば、近い将来、寒河江市が落ちぶれるようなことになれば、あの時、学校の統廃合をリードした教育長がすべて悪いんだということになってしまいかねません。だからこそ、ここで責任の所在を明らかにしておかなければなりませんと思うわけでもあります。ずばりお伺いします。この度の学校の統廃合は最初から佐藤市長の命令によってプログラムが進められているのではありませんか。明確にお答えいただきたいと思えます

(教育長)

寒河江市には、教育振興計画というのがあります。教育振興計画で小中学校については、老朽化も進んでいる。また、児童生徒数の減少も顕著になってきているということで、統廃合を含めて検討していくこととするという計画があります。それに基づき、あり方検討委員会前にも外部の方を入れた統廃合を考える会をもちまして、そしてその後、あり方検討委員会で検討してきたということでもあります。ですから、市長がこうしろとかそういったことではございませんで、教育委員会、いろんな外部の方の意見も伺いながらこの計画を立ててきたということです。

(発言者B)

何か避けられているような感じがします。NGリストに入っているのでしょうか。市長の命令なんか受けていないということですが、何とも曖昧な回答で、前教育長が突然辞任いたしました。新しい教育長にあなたが市長から任命されたわけですが、このことだけでなく、計画の内容にこじつけなど、様々な点において不自然な点があります。こういったことをこれまでの経緯を考えれば、今回の統廃合は市長の命令によって進められているんだと考えれば、すべてが納得いきます。市長の命令によってこの統廃合を進めていると私は確信します。教育長ではこれ以上のことは答えられないと思いますので、今日はこれくらいしておきます。

(学校教育課長)

どうぞ。

(発言者 A)

統廃合によって考えられるいじめの件とかそこに対して、特別支援コーディネーターなどの専門教員の配置を要望していく考えがございました。1000名をこえる子どもたちに対して、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなどの活用も考えられるかなと思います。教員間の連携、教員同士の情報交換、確かに必要ですが、部活も見て、授業もやっている中で、なかなかそういった教員間の連携が図れない部分を補ってくれるのが特別支援コーディネーターであったり、スクールカウンセラーだと私は思うので、その活用などについてのお考えをお聞かせください。教員も子どもも元気で学校に通うためには人的な資源を集中することも必要だと思いますので、そういった具体的なところがわかれば教えていただきたいと思います。

(教育長)

今おっしゃられたように学校の教員だけですべてに対応しようとするのは無理なんだと思います。ですから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、そして、いろんな児童生徒に対しての補助員、支援員を活用していかなければならないと思います。今もスクールカウンセラーを県の施策として常時配置とまではいきませんが配置してもらっています。これは、県全体の活用としてですが、今年から小学校にも直接保護者の方の要望等あればスクールカウンセラーが出かけられるようにもなりました。ですから、統合後につきましてもスクールカウンセラーを、市で1校の規模となりますので、多い時間活用できるように県の方に要望していきたいと思ったり、市としても特別支援の子どもたちも含めて子どもたちへの支援、教員への支援といいますが、教員の仕事への補助といいますが、そうしたことをしてもらえ、今で言うと会計年度任用職員で配置しておりますが、そうした人数を増やして行って、対応していきたいと思ったり。

(学校教育課長)

よろしいでしょうか。その他ございますか。

(発言者 C)

8時30分までは、30分ほどありますので短く発言します。市議会の中継をインターネットで傍聴していたのですが、ある議員の一般質問の中でこんな発言がありました。有権者のところをまわっていて、小中学校の統廃合の話を知るとほとんどの人がもう決まったことだと、諦め顔だったということでもあります。これは何を意味しているのでしょうか。どういうことを物語っているのでしょうか。これから教育委員会の審議があるにも関わらず、市民のみなさんは教育委員会とか議会は、市長の言いなりであてにはならないというようなことを意味しているのではないのでしょうか。つまり寒河江市の教育委員会なんていうのは、単なる飾り物だと思われるのではないのでしょうか。今回の説明会の様子を記録されまして教育委員会のホームページに掲載され、教育委員のみなさんにも読んでいただけるのであると思いますが、読んでもらうことを期待しての質

問です。教育委員会には4名の委員のみなさん、國井晴彦委員、鈴木多鶴子委員、大沼賀世委員、鈴木淳一委員、この4名の委員のみなさんに申し上げたいと思います。大変失礼なことを申し上げますが、教育委員のみなさんは、市長から任命されて教育委員になったわけですが、頭のどこかに当局の案には反対してはならないとか、市当局の案は追認するために教育委員会があるんだとかというような考えが頭のどこかにあるのかもしれませんが、しかし、これはおかしい、これは変だ、賛成しかねる、少しでもそんなことを思ったときは、そんな時には毅然と堂々と反対していただきたいと思います。今回の学校統廃合の問題は、単に子どものことだけでなく、寒河江市の将来を大きく左右する非常に重大な案件であるということを十分に認識され、審議をしていただきたいと思います。当局の計画を盲目的に追認することのないように、良識のある建設的な議論をしていただきたいと思います。どうか、教育委員会の存在意義を見せてもらいたいと思います。さて、まったくの憶測で大変申し訳ありませんが、今年度の途中で教育委員の1人の委員がお辞めになりました。そして、新しい委員に変わったわけですが、この委員の辞任は教育委員会の強引な進め方に対する抗議の辞任だったのではありませんか。

(教育長)

そういった辞任ではありません。ご自分のご都合があつての辞任ということです。

(発言者D)

財政のところを出していただけないでしょうか。1校と2校の場合、これが1校の場合、今のところですね。1校の場合は75億円の予算で、市の負担が25億、2校の場合は2つあわせて100億円の予算で市の負担は70億、土地代とかは考慮されていないということですが、1校と2校にする場合、市の負担、つまり我々の負担ですが、40億円くらいの差がでるであろうという試算をされているわけです。これを見るとそれだと1校にするほかないべみたいな感じというのを市民のみなさんは持つと思うんですよ。これは財源の側から1校か2校かを決めていこうという考え方になるので、本来はそうではなくて学校教育は一般行政と違うことは、経済的な合理性のみで判断してはいけないんだよということが十分含まれているわけで、1校にするか2校にするか拮抗しているので、1校にする場合の財政はこういう風になります。2校にする場合にはもっと努力すれば、1校とそう変わらない方法をもっと考えてもいいような気がする。だって1校、2校はみんな拮抗している、みんなどっちにしようか迷っているんだと思う。財政でポンと決めるのでは、これだとどうしてもそういう風になってしまいますので、これだとあまりよくないかなと思います。1校にする場合、市民のみなさんよく考えている。頑張って頑張ってこういう方法もありますよ、そうすると1校に近い費用で収まる可能性もあるところまで示す、そういう努力をしないで差がこれくらいで、努力不足だと思う。私だったらもっと努力をする、こういう方法もあるのではないか、そういうことを思います。失礼けれども中抜きして結論を急いでいる感じがする。もうちょっと財政面がんばっ

てほしい、もっともっと方法があるはずです、ないと言われればしょうがない。検討していただきたいと思います

(教育長)

財政面だけで決定しているということではありません。数字を今回、国の法律、いろんな政策を含んで計算したところです。この説明会でも、どれくらいかかるのかをきちんと示してほしいという意見も昨年度多く出ました。我々も財政面で決めるのではない、ただ、1つの決定する要素であることは変わらないと思います。今回こういった形で具体的な数字を示しております。教育についてはお金のことではないということも気持ちとしてわかるわけですが、寒河江市の人口構成、これからの推移をみると生産年齢の層がどんどん少なくなっていく、高齢者の割合も高くなっていく。そういった中で保護者の方からは、将来的に借金なので、そういったことを結局払っていくのは子どもたちで、その払う人数が少なくなっていく中で、払っていくのは大変ではないかというご意見もでていて、そういうのも1つあります。そうしたことを全部含みながらですし、例えば、小学校について申し上げますと、当初の計画では西部地区は、醍醐小校舎を使って統合する。西根小、三泉小は、西根小の校舎を使って統合する。そして、新たに5校を統合した小学校を作る計画でしたが、今回は、西部地区に1校小学校を新しく作る、西根、三泉の統合校を新しく作る、小学校については、当初の予定よりも1校多く作ることとなります。この段階で、ですから、お金も億単位でかかっているわけですから、そういったことも考えながらやっているということでございます。また、以前ご指摘いただきましたが、当初のロードマップですと寒河江小と南部小、寒河江中部小と柴橋小これを新校舎を建築し統合することを検討と出しておりましたが、このあたりもさきほど申し上げたように小学校と地域の関りとか考えながら、今後の社会情勢や子どもたちの人数等を考慮しながら検討していくということで、スタートの段階で、そういったところから検討をはじめようと、その選択肢の中に統合することもあると思いますが、そういったことでこの計画を修正させていただいた。なるべく去年、説明会もさせていただいてご意見もいただいたところを入れられるところは入れて、今日も話題になっております中学校1校2校ですが、どちらが絶対的にいいということではないので、教育行政に携わるものとして、今後のこと、10年20年後を含めて考えていかないとダメだと思います。それはわれわれの責任だと思いますので、財政面も含めてだしたいと思いますので、そうしたことも考えて今回の改定案をお示しさせていただいたということでございます。

(発言者D)

財政の問題をだしてもらったのは、私は市民の考えた方を受け止めていただいているのかなと思いますし、ただ、40億の差、市民はわからないからもう1校だってなってしまう、そういうこともあるということです。そうならないように2校にした場合にはこういった方法も考えてみた。こういった方法もあるのではないかと努力をしてみたという、努力の跡が見えないとまずいと思う。努力不足だと思います。とても大きな国庫補助、新增築か統合しないと1/2でない

という大きな条件があるので、どうしてもそこにすり寄ってしまう。そうではなくて、議論をもっと早めにして、ここは単独で残してほしいという市民の声があるのであれば、単独で残したときの財政措置は何があるのか、そういったことを示しながら、市民に寄り添うことにはちょっと足りないなど、そこはこれからでも間に合うと思う。40億の差はないのではないか。実際そうせざるを得ないとして我々にはどういう負担としてかえてくるのか、学校作って倒産した自治体は聞いたことがない。その辺り少し足りない感じがしたので検討いただければと思います。

(学校教育課長)

ありがとうございました。その他ございますか。

(発言者 C)

今のお話を伺って私もそうだなと、お金のことを見て思ったということだけ一言。それと中学校1校について最初の説明会のときは嫌だと思っていたが、その後いろんな話を説明会に行ったりする中で、友達とかと話をしていく中で、結局は1校か2校かが問題というよりは、中身の方が問題なのかなという気もしていて、私自身の高校は7クラスあったのですが、大きいからといっていじめが多かったかというそれは違うと思うし、その不安だけを誇張して話していくのは違うような気がだんだんとしてきて、せっかく大きくすると決まったら、今までのような、先生がレベルがミックスした状態の子どもたちに一斉に授業するようなスタイルじゃない、学習塾のような、よりそった、子どもたちの理解によりそったやり方ができるようにして、そういうシステムを導入してくれるとか、前も言ったかもしれませんが、子どもたちが先生の講義を選んでとれる、子どもたちが先生を評価するというのも違うのですが、合う、合わないとかもあるでしょうし、担任と決まったらそれ以上は変えられないとかでもなく、子どもたちにも選択権、発言権を与えられるようなシステムにするとか、1校か2校かも大事だと思うし、毎日通うことなのでスクールバスとかも付随する問題がいろいろあると思うのですが、周りの親は、1校か2校かよりもその次のところを気にしているのではないかと考えていて、そこに期待しています。中で働く先生がどうしても公立学校なので異動することはあると思うのですが、だからといってできないではなく、寒河江の中学校はこうです、小学校はこうですとやっていただければうれしいなと思います

(教育長)

今おっしゃられたこと私も大事だと思っております。今ですと多くの学校で担任がいて3年1組とか3年2組とか決まっているわけですが、だんだんがっちりした担任ではなく、学年担任制、複数クラスを複数の教員で担任のような形で対応していくとか、そういったことも出て来ていますし、そうしたことをフレキシブルにやっていくことはいいのかなと思います。教員も生徒も人間ですので、なんとなく合う、合わないは出てくると思う。そうした時に、緩やかさ

があるとお互いにいいのかなと思います。そうしたこともある程度の教員数がいた方がやりやすいことはあると思います。また、いろんな教え方も、例えば、私は陵南中で校長をしておりましたが、社会科の教員は5人くらいいました。毎週、時間割の1コマで社会科部会を設けまして、こういう風な授業、この資料を使うと子どもたちが反応してよかったとか、そういったことでお互いの教材研究してきたことを持ち寄ってよりよい授業を作ることもやりやすい。そうしたこともどんどん取り入れていくことが子どもたちに力をつけることになっていくなと思いますので、今までのような、がっちりしたものではなく、フレキシブルで柔軟性のあるものの方が子どもたちにも今後力をつけていけるのではないかと考えております。

(学校教育課長)

よろしいでしょうか。

(発言者C)

わかりました、ありがとうございます。子どもが学校に行き渋ったときに、寒河江市内で行ってもいい、出席日数とかはあまり関係ないのかもしれませんが、学校に行ったよということに数えられるような場所が、例えば、廃校になったところを使って、身近なところで選べたりできるとありがたいなと思います。そういうところも含めて、1校になったからとか2校になったからとかそういうことは別かもしれませんが、こぼれてしまったときに頼れるところを考えていただけるとありがたいなと思います。

(教育長)

現在でも寒河江市では寒陵スクールということで、文化センターで毎日、午前中ですがスクールを開いております。そこには教員のOBの人たちを市の方でお願いしまして、いろんな勉強とか、一緒に畑を作って収穫したもので調理実習をしたりとか、今度は、高畠に遠足とかも行きますが、そうした行事などもしながら対応しております。そうした中で、あるお子さんは、寒陵スクールに2日行って、学校に3日行ってみるとか、ちょっと学校に行きづらいときは寒陵スクールにくるとか、そういう形で学校とつなぐ1つの懸け橋としての利用もありますし、ただ、文化センターのところにありますので、遠いところもありますので、もう少し近くにあればといったご意見も伺ったりします。人数も寒陵スクールには小中学生あわせて25人くらい在籍しております。それで今年から支援員の方を1名増やして6名体制で、ずっとみんな6名ではないですが、週何回かという方もいらっしゃるんですが、6名体制で、なかなか寒陵スクールまでも足が向かないお子さんについては、ご家庭を訪問して、訪問でのいろんな対応も行っています。中学校だけの問題でないと思いますが、小学校のお子さんの登校渋りも全国的にも寒河江市でも増えていますので、そうした対応もいろんな面でやっているところです。そうした遠くて行きづらいなどそういったことも解消できるように、統合とは別に考えていかなければならないとされているところです。

(学校教育課長)

他にございますか。

(発言者 E)

小学校の子こどもがいます。難しいことはわからないのですが、子どもの考えとといいますか、数年前に卒園したときに、保育園などは地元だけでなくいろんなところからきているので、一番仲よかった子が別な小学校に行く事になりました。卒園する前にくらいに統合の話を聞いて、また一緒になれるんだね、次は小学校なのに、最後の言葉が中学校でね、バイバイといったことがありました。だからといって1校、2校とかそういうのではなく、子どもたちはいろんな選択肢があるので、決めるときに財源とか様々な問題あると思いますが、今通っている子どもたち、これから通う子どもたちがどういう風に学校生活できるのかな、いろいろ社会が変わって行って、学校の授業のスタイルも私たちが子どものときとだいぶ変わっていて、タブレットなんかなかった時代でしたが、今は1年生、2年生でタブレットを毎日使って授業して、順応性があると思います。今は授業をみんな一緒にやっておりますが、人数とか増えれば先生の負担もどうかかわらないのですが、国語が得意な子、算数が得意な子、様々あると思います。国語はこういうクラス分けであったりとか、算数はこういうクラス分けであったりとか、体育も運動得意な子、不得意な子がいたりするので、習熟度別、そういった形の学校があってもいいのかな。さきほども1校か2校かが問題ではなく、そこで学べる環境と言いますか、いろんな選択肢を増やしてやるのが必要なのかなと思いました。またねと言っている反面、バスで通うのは嫌だなとか言っているので、その時々で子どもはそんなもんだと思うのですが、そんな子どもたちが楽しく通える、運動しておもしろい、勉強しておもしろい、いろんな人がいておもしろい、子どもが中心になれるように、どこか頭の片隅において、それがメインなのかもしれませんが、いろんな制約とかでてくるかと思いますが、メインが何なんだろうと思うと、子どもたちだと思うので、そここのところを考えながら、いろいろと話をつきつめていただければと思います。まとまりがなくすみません。

(教育長)

ありがとうございます。今お話の中で、子どもたちが学校楽しくて明日も行きたいと思う学校にとありましたが、私もその通りだと思います。そんな学校を作っていきたいと思います。

(学校教育課長)

以上で質問は終了いたします。